

掲示板

「あなたがたの父のお許しなしには
地に落ちることはありません。」
(マタイ 10:29)

・誕生日おめでとう！

10月にお生まれの方、おめでとうございます！

教会で配布される週報には、お名前を記させていただきお祝いしておりますが、WEB版のこの週報では、プライバシーに配慮し記名などは避けさせていただいております。

・連絡事項

I. 礼拝は午前11時から12時まで行われます。感染予防のため、入り口での消毒、マスク着用、教会近隣への配慮のため立ち話しは控え、礼拝終了後は静かにお帰り下さい。その他の詳細ルールは教会で配布します。ご理解とご協力をお願いします。

・祈り

病に苦しむ兄弟姉妹に神の癒しと平安がありますように
危機にある世界が戦争やコロナウイルスから守られますように。
備えられる教会、神に備えられる信仰者にしてください。
人々がイエス・キリストの御名を信じて救われますように。
信仰の創始者、完成者であるイエスから目を離さないように。
教会の交わりが互いに愛し合うものとなりますように。
この主イエス様の愛を人々に伝える者としてください。
小さなのちの健康と成長、学びが守られますように。
今後の教会の礼拝が守られ、祝福されますように。

葛西福音キリスト教会週報

2022年10月9日(日) 第449回主日礼拝

牧師 松山公要(WEB版)

「神は、みこころのままに、
あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、
事を行わせてくださるのです。」
(ピリピ人への手紙2章13節)

礼拝 次第

黙 禱		一 同
賛 美	243「罪人たちのために」	
使徒信条		
主の祈り		
祈 禱		司会者
聖書朗読	「マタイ 10:24-33」	司会者
説 教	「一羽の雀」	牧 師
祈 り		
賛 美	285「心くじけて」	一 同
献 金		
感謝祈禱		指名者
頌 栄	63「父 御子 御霊の」	一 同
祝 禱		牧 師
報 告		司会者

聖書のお話し「一羽の雀」

序)「一番大切なもの」

私たちにとって、一番大切なものとは一体何でしょうか。お金？健康？一生懸命勉強して賢くなることでしょうか。これらはみな大切なものです。しかし、どれほどお金があっても、からだが丈夫でも、知識にあふれていたとしても、この問題に解決や見通しを持たないならば意味のないことがあります。それはいのちです。私たちに与えられたいのちはたった一つです。本日の聖書箇所はイエス様が私たちのいのちを守られるお方だと教えてくれるのです。

本論)「一羽の雀」

I.「神様を恐れるとは」

ラジオ伝道や教団で尊い働きをされた羽鳥明(はとりあきら)先生は、かつて子供時代、いったいどのようにして生きていいのかわからず、むなしい毎日だったそうです。そのような中、第二次世界大戦中の学校で先生が生徒の信仰、当時迫害されることの多いキリスト者かどうかを調べたそうです。そのとき一人の少年が「僕はクリスチャンです」とはっきりとあかししたそうです。その勇気ある姿に羽鳥少年は心をとらえられ、そしてイエス様を信じるように導かれたそうです。

本日は、イエス様が十二使徒を伝道に遣わされようとした時のお話です。

イエス様は、からだもたましいも地獄で滅ぼす力のある方を恐れなさいと言われました。弟子たちの伝道の働きを邪魔する人たちが出ることをイエス様は知っておられました。ですから、人々の顔色をうかがうのではなく、いのちを支配しておられる神様だけを恐れなさいと教えられたのです。

II.「一羽の雀さえ」

皆さんは雀を知っておられますか。昔はよく、電線や田んぼや畑で見かけましたね。イエス様の時代、二羽の雀は1アサリオンで売られていました。1アサリオンとは、当時、一番価値の低いお金、今の500円のような感じで、一番価値の低いお金でした。ところが、そのような雀でさえも、父なる神様の許しがなければ地に落ちる、すなわち死ぬことはないと言われました。

ですから、神様は私たちを忘れること、見捨てられることは絶対ありません。神様は私たちがどこにいても、どんな時も私たちを守って下さるのです。

III.「神様の守りの中で生きる」

イエス様は続けて、私たちの頭の毛までもみな神様に数えられていると言われました。びっくりですね。それだけ神様は私たちのことを知り尽くされているのです。神様は私たちのすべてをご存じです。ですから、私たちの毎日の生活の中で苦しいことや辛いことがあっても、神様が守っていてくださることを信じ、すべてを神様にお任せしましょう。

ある幼くして難しい病気で亡くなった女の子のお話を、皆様は知っておられるでしょうか。その子は植木亜紀子さんです。彼女は3歳の時に急性白血病にかかり、わずか11歳で地上の生涯を終え、天国に帰りました。彼女は9回の入退院、ひどい痛みのある治療を何度も繰り返し受けました。そのような中、10歳でイエス様を信じ、洗礼を受けました。彼女の日記にはこのように記されています。「つらかったけれども全部乗り越えてやってきたこと、やってこれたことに感謝します。これは本当に神様が私にくれた一生なんだな、とおもいました」と。神様への感謝が記されていました。

勧め)「一羽の雀」

神様は私たちのいのちを支配し、守ってくださいます。私たちのいのちが神様の愛の御手の中にあることに信頼し、感謝しましょう。